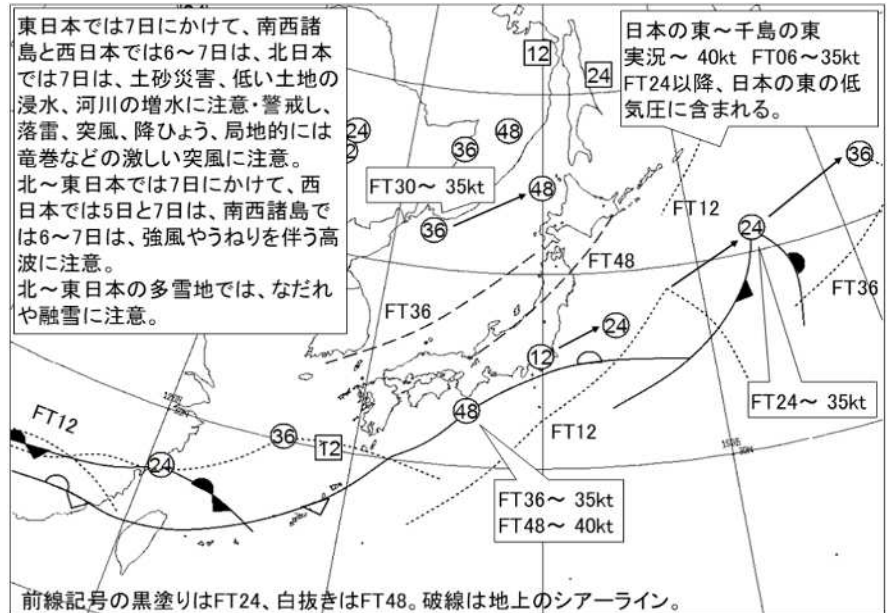


1. 実況上の着目点

- ① 500hPa 5400m付近のトラフ対応の低気圧がオホーツク海を東北東進し前線が北日本を通過中。
- ② 500hPa 5700～5760mのトラフが東シナ海を東進。同高度の強風軸に対応する前線が日本の東～伊豆諸島付近～沖縄地方付近にのびている。前線近傍では、強い雨を解析、雷を検知。
- ③ ①②の低気圧や前線の影響で、北～東日本ではやや強い風を観測し、波がうねりを伴い高くしけの所がある。
- ④ 衛星画像で東シナ海付近に黄砂が確認できるが、予想過大。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①の低気圧は、5日夜にかけて千島近海を東北東へ進む。1項②の伊豆諸島付近～沖縄地方付近の前線は、上層トラフが通過する6日朝までに次第に不明瞭化する。また、上層トラフと下層の相対的な暖気に対応し、5日夜までに関東地方に低気圧が発生して東北東進する。前線や低気圧に向かう下層暖湿気と上空寒気の影響で、大気の状態が不安定となる所がある。東日本では6日にかけて、落雷や突風、降ひょうに注意。
- ② 6日は、500hPa 5760m付近の強風軸対応の前線上の東シナ海に低気圧が発生。この低気圧は発達しながら、7日は種子島・屋久島付近を通過して日本の南から三陸沖に遷移するように進み、前線が南西諸島付近にのびる。また、7日は、500hPa 5400m付近のトラフ対応の別の低気圧が、日本海中部から宗谷海峡付近を通過してオホーツク海に進み、シアールラインが北～西日本を通過する。前線や低気圧、シアールラインに向かう下層暖湿気と上空寒気の影響で、大気の状態が非常に不安定となる所がある。特に多量の水蒸気が流れ込む南西諸島や九州南部、伊豆諸島を中心に、激しい雨や非常に激しい雨が降り大雨となる所がある。南西諸島や九州南部では6～7日は、西～北日本では7日は、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒し、落雷、突風、降ひょう、局地的には竜巻などの激しい突風に注意。
- ③ 2項①②の低気圧や前線、シアールラインの影響で強い風や非常に強い風が吹き、波が高くなりしける所がある。1項③のうねりの影響で波の高い状態が続く所もある。北～東日本では7日にかけて、西日本では5日と7日は、南西諸島では6～7日は、強風や高波に注意。
- ④ 日中の昇温や降水で雪解けの進む所がある。北～東日本の多雪地では、なだれや融雪に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点

総観場はGSMを基本、量的予想や降水分布はMSMやLFMも参考。2項②の2つの低気圧の位置や発達の程度は不確実性がある。

4. 防災関連事項【量的予報等】

- ① 雨量(18時からの24時間)：多い所(100mm以上)はない。
- ② 波浪(明日まで)：東北・関東・伊豆諸島4、北海道・東海・近畿3m。

5. 全般気象情報発表の有無

発表の予定はない。